

旧東京北部小包集中局跡地活用に関する意見書

平成 29 年 1 月

旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する地域協議会

目次

はじめに	1
1 基本方針	2
2 活用を図る上で留意すべき点	3
3 今後の取組みについて	4
＜参考資料＞	
協議会の意見	5
協議会の開催経緯	6
各班ごとの意見	7
ワークショップ風景	10
旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する地域協議会の構成	11

はじめに

旧東京北部小包集中局跡地は、敷地面積が約1万㎡と区内において、最大の大規模用地です。

区ではこれまで、平成12年4月から、恒久的な活用として「台東清掃事務所清川清掃車庫」「防災備蓄倉庫」を、また、平成22年12月から暫定的な活用として「清川自転車保管所」「浅草文化観光センター清川駐車場」を設置してきました。

地域としては一日でも早く、この旧東京北部小包集中局跡地の再整備を行い、にぎわいや活性化につなげてほしいと切に願っています。

この度、旧東京北部小包集中局跡地周辺の7町会や清川地区町会連合会を中心とする38名で構成する『旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する地域協議会』において、平成28年7月から平成29年1月まで、全体会4回、ワークショップ延べ4回を開催し協議を重ねてきました。

こうした協議のなかで、旧東京北部小包集中局跡地の活用にあたり、基本方針や活用を図る上で留意する点について、協議会としての意見がまとまりましたので、意見書として台東区に提出いたします。

今後、旧東京北部小包集中局跡地の本格活用を進めるにあたり、本意見書の主旨を十分に踏まえ、清川地区のみならず区全体の活性化に資する活用が実現することを期待します。

平成29年1月

旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する地域協議会会長

旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する地域協議会において、活用に関する検討を行い、以下のとおり活用方策を取りまとめた。

1 基本方針

本用地周辺地域においては、多様な世代の住民や観光客などの来街者が集うこと、さらには地域に集積している特色ある産業や文化的な資源を広く発信し、次世代に継承していくことなどにより「にぎわいのあるまちづくり」が望まれている。

そこで、敷地面積約1万㎡を有す本用地のポテンシャルを最大限に活かし、にぎわいを創出し、周辺地域の生活環境を向上させ、安全・安心で快適な暮らしが実現できるよう配慮しながら、周辺地域のみならず、区全体の活性化に繋がる有効的な活用を図る。

2 活用を図る上で留意すべき点

基本方針を実現すべく、次の点に留意して活用を図ること。

(1) 観光・産業の振興

本用地が、浅草観光や東京観光の基点として機能するように、交通利便性の向上を図り、整備をすること。また、本区に集積する産業や文化の魅力をPRし、本用地周辺地域への誘客に寄与する活用を図ること。

(2) 若年層の誘致

本用地周辺の地域に、にぎわいをもたらし、地域活動の担い手となる若い世代が集まり、行き交うような機能を備えること。

(3) 区民の生活を支える

少子高齢化の進行や、待機児童の増加など、地域の実情を勘案し、地域の生活環境の向上に寄与する活用を図ること。

(4) 災害時への備え

“備蓄倉庫と自立的なエネルギー”を整備し、災害時の物資配給やエネルギー供給の拠点をめざすなど、周辺住民をはじめとする区民が、安全・安心に暮らせる防災機能を備えること。

3 今後の取り組みについて

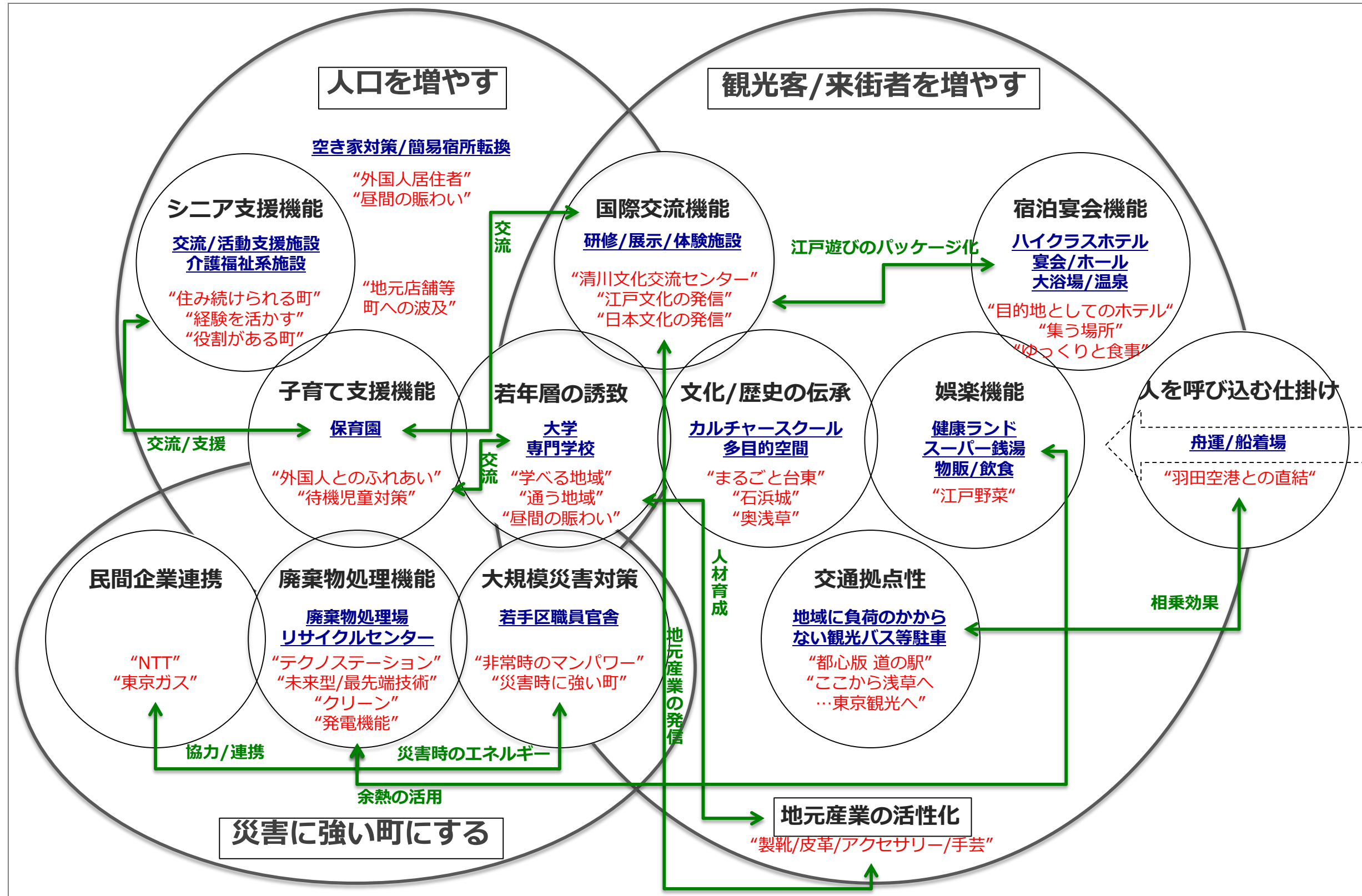
旧東京北部小包集中局跡地の活用については、本意見書の基本方針に合致し、また、留意すべき点についても可能な限り実現するよう努めること。

その際、明確な事業計画、行程表を地域住民に早期に示し、その計画に沿って本協議会で議論された内容について検証し、検討を進めていくこと。その過程においては、地域住民と十分な情報共有を図り、地域と行政が一体となって活用の具体化に取り組むこと。

<参考資料>

協議会の意見

当協議会では、全体会4回、ワークショップ延べ4回を開催し協議を重ね、様々な観点から、旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する議論を行った。下図はそれら意見を取り纏めた図である。



協議会の開催経緯

当協議会では、平成 28 年 7 月に第 1 回の全体会が開始されてから、約半年間、全体会 4 回、ワークショップ延べ 4 回を開催した。

平成 28 年 7 月 27 日 第 1 回全体会

- ・本会主旨、旧東京北部小包集中局跡地及び周辺の基本情報の共有
- ・協議会、ワークショップの進め方に関する説明

平成 28 年 8 月 30 日 第 1 回 A 班ワークショップ

- ・A チームワークショップ (A1 班～A3 班の対話・意見交換)

平成 28 年 8 月 31 日 第 1 回 B 班ワークショップ

- ・B チームワークショップ (B1 班～B3 班の対話・意見交換)

平成 28 年 9 月 27 日 第 2 回 B 班ワークショップ

- ・B チーム発表 (B1 班～B3 班の発表)

平成 28 年 10 月 4 日 第 2 回 A 班ワークショップ

- ・A チーム発表 (A1 班～A3 班の発表)

平成 28 年 11 月 11 日 第 2 回全体会

- ・A 班・B 班、全発表内容の全体共有、全体意見交換

平成 28 年 12 月 6 日 第 3 回全体会

- ・意見書の構成、内容に関する意見交換

平成 29 年 1 月 24 日 第 4 回全体会

- ・意見書(案)の確認

各班ごとの意見

当協議会では、Aチーム、Bチームとチームを分け、各チームごと3班に分かれて議論を行った。A1班～A3班、B1班～B2班の各意見の要旨は以下の通りである。

	望む機能	主な意見等
A1班	<u>主要機能</u> 大学・専門学校 住宅機能 <u>併設機能</u> 保育園 区役所職員用官舎 スーパー銭湯 お城（石浜城）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口を増やしたい、特に若い人を増やしたい ・ 若い人を増やすには大学や専門学校があるとよい ・ 保育園機能があれば若い世代が暮らしやすい ・ 区役所職員の官舎があれば、地域の災害対策にもなる ・ 区にお金落ちる施設も必要 ・ 箱モノにこだわらず、人を呼ぶ仕掛けが必要 ・ 跡地の近くに舟運機能があれば、現在のバス路線を補う交通機能となり、通勤、防災、観光面でプラスとなる ・ 若い人が空き家に住めば空き家対策や地域の災害対策にもなる
A2班	<u>主要機能</u> ‘まるごと台東区’ 浅草への起点機能 加チャ-ショップ ^o 加チャ-センター 多目的室内空間 <u>併設機能</u> 区の職員住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客の交通の基点となり、併せて立ち寄る場がほしい ・ 地域に負荷の少ない駐車場を設け、浅草へ無料の送迎をする ・ 加チャ-ショップ^o やスク-ルで皮革・アクセリ-・手芸・スホ-ツの体験・物販 ・ イベント等で活用してもらうための多目的室内空間・広場 ・ 防災の観点から台東区の若手職員用住宅を整備したい ・ この場所の活用によって、地域全体の経済や環境への寄与、若い人を中心とした賑わいの向上、まちが綺麗になるなど、これまで地域が困ってきたことが改善されて住みやすいまちになるとよい

	望む機能	主な意見等
A 3 班	<p><u>主要機能</u> ‘清川文化交流センター’</p> <p>研修機能 物販機能 展示機能 体験機能 飲食機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民と外国人の交流がさかんなインターナショナルな集客施設にしたい ・ 山谷地域では、一部の宿が観光客向けに改装したことで、外国人観光客が多く訪れるようになり、まちに新しい人の流れが生まれ始めている ・ 革製品や江戸野菜など北部地域や日本の文化を世界に発信し、奥浅草のブランドを形成したい ・ 外国人旅行者と住民の接点を増やし、北部地域を日常的に英語が飛び交う国際的な地区にしたい ・ この場所に人が集まることで周辺の商店が潤い、地域にも人が増えてくると考える ・ 北部地域は東京の中でも治安やアクセスが良く、安く宿泊できる場所というイメージを広めたい
B 1 班	<p><u>主要機能</u> テクノステーション (ごみ焼却場)</p> <p><u>併設機能</u> 健康ランド 住宅機能、保育園 防災機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台東区のごみは区内で処理すべきであり、区内でごみ処理ができれば区全体にプラスとなる ・ ごみ焼却場の余熱は、健康ランドのお風呂やプールなどに利用でき、地元の人が日常的に使える施設になり、他から人が利用しにくる施設にもなる ・ 次世代思考から、若い世代が住みやすくなる機能が必要 ・ テクノステーションでエネルギーを確保しながら、備蓄倉庫などを用意し、物資面でも備える ・ テクノステーション+併設機能は他に例がないので見学者が訪れ、凄いと思ってもらえる ・ 交通安全には留意する、安全が保たれるならば観光バス駐車場も置いてよい

	望む機能	主な意見等
B 2 班	<u>主要機能</u> ホテル 高層（30F）、開閉式露天風呂、地場産業フロア、伝統文化フロア、フードフロア、多目的ホール <u>併設機能</u> オフィス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の資源を活用・発信するランドマークとなる施設にしたい ・ 外国人観光客の東京観光の拠点にしたい ・ 地場産業である皮革・着物をPRするフロアがほしい ・ 舟遊び、お座敷遊び、能、料亭、花見、夜景等を活用したい ・ 飲食店が少ないので、各種料理を提供できる飲食店がほしい ・ 地域の人々の催しや、観光客と交流するための空間がほしい ・ ホテルはもとより、オフィス併設に伴い、働く人が増えると地域の店舗への好影響が期待できる ・ 隅田川の水上交通の整備により羽田・浅草間のアクセスを向上させたい
B 3 班	<u>主要機能</u> 「住みやすい」 保育園、介護福祉施設 「災害に強い」 クリーンエネルギー、 ごみ焼却のテクノセンター <u>併設機能</u> 「地域力向上」 専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代が住みやすいと感じてもらえるよう福祉、介護、子育て機能を充実させた地域にしたい ・ まちのエネルギーを地域で自給できるような世界に誇れる災害に強い地域にしていきたい ・ そのために周辺にある東京ガスやNTTなど既存の施設とも協力していく ・ 学生が福祉、介護、子育て、エネルギーなどについて座学でも実地でも学べる専門学校をつくり、さらに周辺に下宿してもらえるような環境を整えたい ・ 学生がまちに増えれば、その受け皿としてビジネスチャンスや交流の機会などが増え、周辺の商店が活性化し、地域内に雇用も生まれ地域力の向上につながる ・ 清川地区が住みたいまち・訪れたいまちナンバー1になるのが最終的に目指すところである

ワークショップ風景

ワークショップは「議論より対話」「否定より発想の広がり」を心がけたものとした。そのため、対話・意見交換の時間を第1ラウンド、第2ラウンドと区切り、第2ラウンドでは一部班員を移動させる、「ワールドカフェ方式」を採用した。



旧東京北部小包集中局跡地の活用に関する地域協議会の構成

町会名	人数
石浜3丁目町会	5名
清川町会	3名
清三町会	4名
橋場一丁目町会	7名
橋場2丁目町会	7名
石浜1丁目町会	2名
石浜2丁目町会	8名
吉野町会	1名
浅草町二町会	1名

計 38 名